

継続的な公開研究会『澤井河川塾』の実施

1. はじめに

2000年(平成12年)9月に八幡市で開催した「川に学ぶシンポジウム in 近畿」の終了後、実行委員が川に関する人のネットワークの継続や知識の習得を兼ねて、摂南大学澤井教授を中心にスタートし、2002年(平成14年)年8月よりNPO法人近畿水の塾の事業の一つとして継続している。

2. 実施内容

河川工学を楽しく、幅広く、実験・具体例(フィールドとしてピオトープづくりや河川蛇行実験など)を併せてわかりやすく学ぶこと、様々なセクターからの受講生が時の話題・情報を提供する。

2000.11.30を第1回とし、2003.3.12の定例会で第27回を迎えた。受講生は、学生・行政担当者・コンサルタント・市民など会員及びその紹介を受けたもので、2000、2001年は河川の基礎工学シリーズ、特別フィールドシリーズ(ワーキング)、2002年はマイリバーシリーズを中心に展開した。



写真：2003.1.15 石川リバーウォッチング
(興正寺別院門前にて)

回	月/日	(参考)2002年度 内 容
17	4/17	マイリバー紹介 堺 土居川(その1)
18	5/22	マイリバー紹介 堺 土居川(その2) フリーディスカッション
19	6/19	マイリバー紹介 堺 土居川(その3) フリーディスカッション
20	7/17	マイリバー紹介 三重 名張川(その1) フリーディスカッション
21	9/18	マイリバー紹介 三重 名張川(その2) フリーディスカッション 報告 「川の日ワークショップ」

22	10/16	「NPO 法人 近畿水の塾」 について 報告 「大阪 川めぐり」 報告 「第2回 川に学ぶ体験活動発表交流会 in 北九州」
23	11/20	マイリバー紹介 貝塚 近木川、汽水ワンド 報告 「第2回川に学ぶ体験活動発表交流会 in 北九州」
24	12/18	特別シリーズ 流域間交流会 大阪 石川と 近木川 川における市民と行政の協働とは?ミニワー クショップ開催
25	1/13	河川塾フィールドワーク 大阪 石川 石川流域講座生との意見交換会
26	2/16	河川塾フィールドワーク 貝塚 近木川
27	3/12	マイリバー ふりかえり 報告 「九州川の日ワークショップ松浦川」
番 外 編	4/14	リバーウォッチング 堺 土居川
	5/19	
	10/12	リバーウォッチング 大阪 川めぐり

3. 成果

近畿圏での川や水辺に関する知識を得、時の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な団体との交流が図れた。

4. 今後の課題

- ・事前に講座・フィールドの希望内容を会員より収集
- ・会員・受講生より得た情報などから、不定期に新たな知見を得れるシリーズ(フィールド・講座)の設置
- ・会員・他のグループよりのプレゼンテーション
- ・二級河川の流域連携、
- など、新年度に向けた内容、また活動の安定・安全を図るために、保険・会費等を検討する必要がある。

5. その他

今後の具体の予定として、

- ・マイリバーを継続して、情報を蓄積し交流をはかり、またマイリバーを紹介しながら川の評価基準により表彰する
 - ・自然再生事業への提案・参画を視野に入れた勉強・公開シンポジウム等
 - ・河川踏査、写真・資料収集等
 - ・マングローブ、干潟事例報告、提案
 - ・環境学習の検討報告
 - ・河川で合宿 フィールドワーク
- などを検討中である。(報告者：西河 嗣郎)

近畿水の塾設立記念会及び『柳川堀割物語』ミニ上映会の報告

< 近畿水の塾設立記念会 >

日時：2003年2月11日(火)

場所：大阪府青少年会館第6会議室

参加人数：記念会65名、交流会45名

プログラム内容：

13:00～13:30 「柳川堀割物語」と「広松 伝」を語る
語り手山道 省三氏(全国水環境交流会事務局長)

13:30～16:20 映画「柳川堀割物語」

16:30～17:00 近畿水の塾がめざすもの

18:00～ 交流会



(映画の一部)

近畿水の塾設立記念会は、小雨降る森ノ宮の大阪市立青少年会館で、65名の参加により、盛大に行なわれました。

まず、広松さんの一番弟子を自認される山道アトリエの山道省三さんから、広松さん語録として、「～ですねえ」、「なあんもわかっとらんですよ」といった独特の語り口をまねて、水とのつきあい方や釣りに行ったときの話など、広松さんの思い出を紹介してくださいました。飲み屋で「もてた」話なども広松さんの日常を垣間見るとお話でした。「少し違うと言われるけど、あえて語り口をまねてしゃべってみたい」という山道さんの自己紹介のとおり、広松さんを知っている人は、「そのとおりだなあ」という感想だったのではないのでしょうか(ちょっと似ていて、ちょっと違うということです)。

私も広松さんの話はけっこう深刻な面も多かったという思い出があります。でも淡々と話す語り口はわかり易く、人を引きこむものでした。パートナーシップという言葉がでてくる数10年も前にそれを実践していたのです。



(山道さん)

続いて柳川堀割物語の上映です。休憩をはさんで165分(2時間45分)の中身はいかがだったでしょうか。堀割の複雑な構造と、堀割にまつわる人々の暮らしを淡々と、しかし、しっかりと映像に残していました。お祭りの映像もまるで回想シーンを見ているようでした。堀割を埋めることに反対して、わずらわしい水とのつきあいを選択した柳川市の人々の、まさに先頭にたっていた広松さんの活動はやはり感動的でした。



(会場の風景)

自然の営みを上手に人が利用することで、環境や防災に配慮した暮らしが可能になるのです。古くから受け継がれてきた伝統的な堀割とのつきあい方は、広松さんに言わせれば「正しい科学技術」なのです。それはおそらく21世紀に必要な持続可能な技術なのだと思います。21世紀の選択すべき代替技術は、過去に実践されているのです。

少々飛躍的ですが、「日本はエネルギーが不足している」と言うのは、うそなのではないかと思えてきます。

江戸時代まで 3000 万人の人をこの小さな島で養うことができたのは、日本中が水郷であり、里山に恵まれてきたからではないでしょうか。この技術を思い起こして、及ばずながら少しでも実践していくことが私たちに求められている気がします。雨の中ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。土谷さんドイツからのたより、ありがとうございました。(報告：久保田洋一)



(交流会 カップ様を取り囲んで)

< 『柳川堀割物語』ミニ上映会 >

日時：2003年3月10日(月)

場所：河川情報センター6階会議室

参加人数：13名

プログラム内容：

18:30～18:45 福廣さんから堀割物語と広松さん紹介

18:45～21:35 映画「柳川堀割物語」

21:00～ 交流会

設立記念会に参加できなかった何人かの方からの要望があって、再度、「柳川堀割物語」の上映会を行うことになりました。



(呼びかけ人の永井さん)

都市基盤整備公団の永井さんの呼びかけにより、平日の晩ながら、13名の方が集まり、仕事疲れもものともせず、165分間の長編を真剣にみんなで鑑賞しました。中には神戸や堺から、はるばるやって来ていただいた方もありました。

上映会終了後の交流会では、明日の仕事を控えているにもかかわらず、映画や広松さん談義に更に盛り上がりました。(報告：足立崇博)



(ミニ上映会の風景)

< 参加者の感想 >

(藤木さん)

平松伝さんの勇気ある行動に感激しました。自分達の歴史、文化、川を守ろうと口で言うのは簡単ですが、自ら先頭に立ち行動して、文化と川を再生していく姿をみて、本当に感動しました。一人の人間にできることはわずかかもしれませんが、行動が感動を生めばたくさん人間が変わっていく。まずは油や洗剤を極力流さないという小さなことから変えて行こうと思いました。

(永井さん)

3時間のドキュメンタリー映画。正直なところ、初めはちょっとつらいかなとも思ったんですが、最後まで楽しませていただきました中身の濃い、良い映画ですね。あまり難しいことは考えずに見ていたのですが、様々な場面で感動し、感心させられました。

わずらわしい付き合いの大切さや「もたせ」に代表されるような知恵、協働や祭りなど、いろんな考えるきっかけを貰った気がします。といっても、なかなかその思考が続かないのが、悲しいところなのですが。

また、映像がほんとうに綺麗で豊かですね。身近に川を感じる事が無くなって久しいですが、この映画を見てると、なんだか、懐かしい気持ちでいっぱいでした。

今回初めてこの映画を見たのですが、流されるままに見ていた気もします。多分、あらためて気づくことがまだまだいっぱいあるんでしょうね。2回、3回と見てみたい映画だと思います。良い機会を下さって、本当にありがとうございました。

(百済さん)

柳川の城下町には「水の一滴は血の一滴」という意識

が古来からあり、水と人の大切なかわりについて一人一人が生活を通じて実感していた。そうした町に近代化の波が寄せ水とのかかわりをわずらわしいものと思うようになりつつあったところに、一人の市職員が立ち上がった。広松伝さんがもし行動を起こさなかったら柳川の水郷はおろか生活に深く根付き培われてきた文化、観光資源、安全など計り知れない市の財産が失われていただろうと今の柳川市民は思っているらしいと思います。

市長の英断もよくぞと言った感じで、水郷の町再生の立役者ですね。感動いたしました。映画自体の出来も、さすがジブリのコンビが作っただけのことはあるな—と思います。

感動だけではなく自分が仕事の中でこの事例をどう生かすのかという部分ですが、今朝もこの映画を知る2名の方と話をしたのですが、堺で抱えるいろんな問題は何かしないといけないんですが、どうしていいかわからないでみんな悩んでいるのが現状です。

課題解決のヒントを求めて、これからも様々な機会を利用し、様々な人と出会い、自己啓発に励まないといけないと自覚いたしました。

(木下さん)

堀割を流れるきれいな水を汲むために冬の寒い日でも朝早くに一度起きて、また寝る。今は、どんどん便利になってきて、寒い、つらい、苦しい、また逆に楽しいとかいうことを感じる機会がなくなっている。

川とのわずらわしいつきあいをいつまでも続けていくことが大事、と広松さんは言っている。年に一回、水を抜きヘドロを田に上げ、魚を取る。これをみんなでやることは、個人の考えを尊重する(各々が好き勝手にやっている)という今の世の中では、やっぱり大変だ。でも、これが地域のつながり、連帯感を生み出していることは間違いない。

川の維持管理。汚水の流入を減らすという努力が必要。市民を巻き込まないと、行政が底泥を浚渫してもまた溜まってくる。非常に当たり前のことではあるが、日本で市民を巻き込んでやっているところはどれだけあるのだろうか。

(足立)

“やる”か“やらない”か。“やる”は“やらない”と無限大に異なります。柳川はやったからすごい。そのきっかけをつくった広松さんは、本当にすごい。

私たちは、“やる”か“やらない”かの簡単な選択において、実は意外と些細なしがらみや障害のせいで、ついつい“やらない”という方にかたむいてしまうことがあります。

しかし、失ってしまってからでは遅い。それは、どんな科学技術を持ってしても、どんなにお金をつぎ込んでしても、なかなか取り戻せないことが多々あります。そのことを、よく知っておくことが大切だと思います。

「柳川堀割物語」は、そんな私たちに教訓を与え、勇気づけてくれるものでありました。

それ以外に、私自身、この映画を何回も観る中で、強く感じたことがあります。それは、やはり、私たちと川(自然)との本当のかかわりを取り戻すためには、日常生活の中で恩恵と畏敬の相反する二つの事象を、体験又は感じる瞬間(川との接点)を持ちつづけることではないでしょうか。

恩恵の瞬間とは?一番は、恵みを食として享受する瞬間だと思います。それでは、畏敬の瞬間とは?おそらく、非情なまでも私たちの命に襲いかかってくる瞬間、そこまでいなくても、自分が自然に対して心からちっぼけさを感じる瞬間だと思います。

この2点を感じることができる社会を取り戻すことができれば、私たちの心ももっと豊かになるような気がします。

少し前の日本には、そんな社会が、きっと当たり前にあったのだと思います。それは、本当に少し前のことで、かろうじて覚えている私たちは、完全に忘れてしまう前に、なんとかする必要があるかと思います。

以上のようなことを感じる事ができた映画でした。165分の映画、全部で4回観ましたが、何回観ても、やっぱり長かった。

(3) 人と水との関わりに係る行政機関、各種事業主体、特定非営利活動法人、市民ボランティア団体等への助言、提案、または、技術的援助

石川河川公園「自然ゾーン」ワークショップへの助言・人的支援

1. はじめに

大阪南部の一級河川「石川」において、市民と行政の協働により、石川本来の自然の保全・復元活動を展開している「石川ワークショップ」に対し、我団体の人材ネットワークを活かした「流域間連携」「具体的な問題解決のための提言」を行い、設立趣旨を具体的なかたちで実践した。

2. 実施内容

- ・「石川ワークショップ」が主催する「石川流域講座」への講師派遣をとおして、「流域」という考え方の必要性を説いた。
- ・「流域」という視点で、市民主導としては初めての開催となる「石川流域フォーラム」の準備にむけてのワークショップに参加し、「長期的、広域的なビジョンを共有することの重要性とその再認識」「市民間のコンセンサスの重要性」などの提案を行った。
- ・フォーラム当日にも、コメンテーターを派遣し、「従来の河川管理手法にとらわれず、川を変わり続けるいきものであるとの認識にもとづく『共生型技術』の考え」を提唱した。

写真1：平成15年1月19日の「石川流域フォーラム」の様子



3. 成果

「市民と行政との協働」を試行錯誤で進める石川ワー

クショップに対し、他流域との連携、交流をとおして、自らの活動内容を客観的に見つめ直すきっかけを提供できたのは大きな成果であった。

また、我団体にとっても石川流域に関わる市民・行政関係者との新たな連携を構築することが出来たこととあわせ、それを「石川流域フォーラム」における協働宣言「石川アピール」のかたちで残すこと



ができた意義は大きい。

写真2：平成15年1月19日の「石川流域フォーラム」の様子

4. 今後の課題

今回構築したネットワークを継続していくことがまず重要であり、また今後は、講師派遣等による流域間連携のみならず、技術的支援も行っていけるような実地データの蓄積が必要であると考えます。

(報告者：勝山 慶一)

(4) 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出

ホームページの作成・更新等についての事業報告

1. はじめに

当会では平成14年9月15日にホームページを立ち上げ、会の概要、入会方法、事業内容、活動報告などを公開している。

また、会員はメーリングリストに登録し、会員間の情報交換を常に行っている。

2. 実施内容

ホームページの内容は以下のとおり

- (1) 当会の概要等
 - ・ 入会方法
 - ・ 設立の経緯
 - ・ 会員紹介のコーナー など
- (2) イベント情報
 - ・ 当会主催のイベント案内
 - ・ 澤井河川塾案内
 - ・ 他団体のイベント案内
- (3) 活動報告
 - ・ 当会の活動報告
 - ・ 澤井河川塾通信
 - ・ 新聞記事掲載
- (4) ニュースレター
 - ・ ドレスデンからの報告
 - ・ 川の「なんでかなあ？」のコーナー
- (5) リンク集
 - ・ 水環境等の市民団体等のリンク集

3. 成果

平成14年9月の立ち上げから15年3月までの間、23回の更新を行い、常に最新情報を発信した。

4. 今後の課題

- ・ 川に関わる活動をしている団体や個人の紹介するコーナーやコラムなどを企画し内容を充実させる。
- ・ 他のホームページにリンクしてもらい広く閲覧してもらうように工夫する

5. その他

今後(平成15年度以降)の予定として、ホームページ以外にニュースレターの定期的な発行を検討している。



NPO法人近畿水の塾ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/mizunojuku/index.html>

(報告者：安田 博之)